

## 益岡 弘 氏の学位審査結果の要旨

主査：人見 浩史

副査：上野 博夫、岡本 祐之

切除皮膚に対する高圧処理技術に着目し、自己の真皮組織を不活化し足場として再利用し、自家培養表皮を生着させる技術が開発されている。本研究は、高圧処理した皮膚の凍結保存について検討した。保存液には 10%グリセロールを用いた。ミニブタを使用して、不活化後に凍結保存した皮膚と即時使用した皮膚で、自家移植後の組織変化について検証を行った。結果は、高圧不活化処理を行った皮膚組織の凍結保存は、組織に悪影響を認めず、皮膚移植についても即時使用とほぼ同等の経過を得ることが可能であった。

高圧処理皮膚の保存法として、グリセロールを使用した簡便で効率的な凍結保存の妥当性が示された。高圧処理には特殊な装置が必要であるが、凍結組織保存法の確立により、専門施設で不活化凍結保存を行い、治療施設を限定せず手術時に再利用できる。本研究の結果は、臨床的に発展的応用が可能となる非常に有用な知見であり、その意義は大きいことから学位に値すると考える。